

女性活躍推進フォーラムin東京第4回

4チームが企画を発表 最優秀賞に「55プロジェクト」

今年度第4回の「女性活躍推進フォーラムin東京」(人材育成委員会主催)が1月26日、日本橋三洋グループビル会議室で開かれ、企業女性の正社員18人(13社)が参加した。今回は今年度の最終回で、4チームが「キャリア



◀講演する大熊三恵氏

「印象度アップ実践講座」

大熊三恵氏が「印象度アップ実践



最優秀賞のBチームと前田竜哉人材育成委員長(右)

ライト・コミュニケーションズ(株)大熊三恵氏が、「印象度アップ実践講座」多くの

合い、外から見た自分の印象を見直してもらった。接遇に大切な表情(笑顔)、立ち居振る舞い、言葉遣い、あいさつ等をコーチし

た。良い印象を与える6か条として、

- ①挨拶する回数 ②返事する回数
- ③笑顔の回数 ④相手の目を見て
- ⑤相手をほめる(お礼をいう)回数 ⑥はつきりした声と明るさ――を挙げた。

最優秀賞のBチーム

女性の復職支援策

企画のプレゼンテーションは各チームが10分以内で行い、女性社員たち自身、派遣した企業の担当者、取材記者、人材育成委員会員など、その場にいた全員が投票に参加した。結果、Bチームの「55プロジェクト」が最優秀賞に選ばれた。

Bチームの企画の概要

目的…女性従業員の退職理由のうち、2つのライフイベント(結婚、出産)について一般企業は5%だが、アミューズメント企業は10%と倍になっている。産休、育休からの復帰をサポートし、女性従業員の離

各チームの企画テーマと参加者 (順不同、敬称略、(株)略)

- Aチーム**「長く働ける職場環境」=中村千佳(NEXUS)、殿村愛美(ABC)、保岡笑(東和産業)
- Bチーム**「55プロジェクト」=高橋親知佳(安田屋)、池尻有花(オータ)、工藤えり(ジャパンニューアルファ)、中島友恵(ピーアークホールディングス)、関谷奈菜(平成観光)
- Cチーム**「他法人との『シェア会』開催」=軍司桃子(東和産業)、山岡涼音(善都)、戸田麻里奈(ニラク)、村岡美奈(マルハン)、北瀬杏奈(安田屋)
- Dチーム**「女性定着率の向上」=鈴木小百合(ABC)、古畑由菜(アサヒディード)、長嶋よしえ(オータ)、安里円(東和産業)、安田弥生(日拓ホーム)

職率を5年後に5%減らす。

提案…①産休・育休制度の認知促進Ⅱ現状では会社側から制度の情報伝達が少ないので、産休・育休中の人や復帰した人が講師になったり、社内報を利用するなどして制度の認知度を高める。②復職フォローの強化Ⅱ戻りやすい環境づくりとして、産休・育休に入る前に会社の制度の再確認と手続きを講習し、休職中の人はこまめに連絡を取り、復職前にも講習を実施して、常に職場の最新事情を伝える。③勤務形態で新制度の導入Ⅱ復帰しやすい環境づくりには産休・育休中も現場を離れないことが重要なので、希望者は週2回2時間程度の出勤ができる制度を導入し、接客業務ではなく、入替準備、接客研修の講師のほか、



自身の資格取得の勉強などに充ててもらおう。

効果…退職者が減り、採用費が抑えられる。復帰後も経験値がそのまま生きて、即戦力が確保できる。女性従業員比率が増えることで、女性ならではのきめ細かい接客や提案ができ、女性客の増加が見込める。女性従業員自身もキャリアの継続が可能となる。



プレゼンの講評で、広報調査委員会 佐藤聖子副委員長は「今回の4チームに共通していたのは離職者対策で、これは九州の女性フォーラム(昨年12月)にも共通していました。会社で女性がいかに長く働けるか、もしくは人生をどう楽しく生きていくかを仕事を通して考えている、そういうことに真剣なんだなと思いました。会社や上司を説得するには客観性が必要ですが、皆さんは外部のデータをうまく使っていて感心しました」と述べた。フォーラムの最後には、場所を変えて交流会が開かれ、参加者たちはにぎやかに歓談し、人脈のネ

ットワークを確認しあった。

日遊協では会員企業の女性正社員を集めたフォーラムを、2015年度から開いている。3〜5人で1チームを構成し、年度を通して同じメンバーで4回前後の直接会合とメール、電話等で議論を重ね、女性が働きやすい環境、キャリアを描ける風土、女性が一層輝く企業・業界に向けての企画を練り上げる。その企画を各自が会社を持ち帰って反映させることが目標だが、企画は、①自社で実践が可能か ②女性都合ではなく男性にも納得できる内容か ③社員都合ではなく会社・経営陣にも受け入れられ、企業としてのメリットを示せているか——など3条件に沿うものとなっている。今年度の女性フォーラムは、「in東京」が4回、「in九州」が3回開かれた。

人材育成委員会

1月26日
日本橋三洋グループビル
出席委員等9人

新年度事業を検討

人材育成フォーラムも候補

新年度の事業計画を検討した。店長・管理職能力開発講習、女性活躍推進フォーラム、女性活躍推

進アンケート調査(広報調査委員会との共同事業)の3事業は前年度から継続して行うこと、ぱちんこ産業合同説明会はいったん中断して新

社会貢献・環境対策委員会

1月11日
ホテルグランドアーク半蔵門
出席委員等12人

中間報告は3月9日に決定

台湾での「認知症予防」共同研究

日遊協と台湾の華南薬理大学、樹河社会福祉基金会とで進行中のパチンコ・パチスロによる認知症予防共同研究事業について、3月9日に1期目の中間報告が同大学で行われることが正式に決まった。

日遊協から社会貢献・環境対策委員会のメンバーが出席して報告を受け、意見交換を行うとともに、現地テストを行っている老人ホームを視察する。

2期目の開始に際しては、現地の希望を取り入れて、貸与した遊技機の仕様を玉・コインレス方式から玉・コインが出る仕様に変更する。さらにトレパチ(豊丸産業のトレニング遊技機)も現状のハンドル式から足ふみペダル式に変更する。

マニラのカジノ視察も

また今回の渡航では、委員会メ

事業を行うことをそれぞれ確認した。合同説明会に代わる候補のひとつに、昨年11月に開かれた人材育成フォーラムを考えるとしている。

ンバーは台湾の前にフィリピンに立ち寄り、マニラのカジノ施設で禁煙・分煙エリアの状況などを視察する予定となっている。

「共生の森・仙台」の植林は、日遊協ボランティア隊、埼玉森林サポータークラブ、委員会メンバーが参加して、5月18日に準備作業等を行った上、翌19日に実施することが決定した。場所は仙台市若林区荒浜一本杉南付近の田ノ神地区国有林となっている。

一方、埼玉・嵐山町の里山造成10年計画「共生の森」の地元への返還式は、3月16日で決定している。返還式前の午前中、東京都・関東支部ボランティア隊と埼玉森林サポータークラブ、委員会メンバーとで林内の清掃、看板の撤去、ため池の柵撤去などの作業を行うことを確認した。